



北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

# 北鎌倉だより

2011年9月 NO.25



老人の畑から六国見山を望む

## 手入れして知る台峯の魅力

### 目次

■手入れとモニタリング .....	2
■台峯周辺の緑地に開発の危機、総会報告 .....	4
■会計報告 .....	5
■会員の声 .....	6
■川上さんのちょっと昔の物語 .....	8
■かっちゃんの昔語り .....	9
■台峯周辺ー歴史つれづれー③ .....	10
■活動報告・伝言板 カレンダー案内 .....	11
■オギ原の四季（裏表紙） .....	12

## 手入れとモニタリング

久保廣晃

### 台峯の保全作業の近況と成果

緑地として保全が決まった後も、より豊かな自然を守る為に、ボランティアの手で草刈や道普請などが行われています。主な作業とその成果についてご紹介します。

#### ●畑の草取りと草刈。

通称老人の畑での作業です。北鎌倉の町と円覚寺を見下ろす眺望の良さから、作業をするのが楽しい場所です。

#### ○畑の草取り

この畑は野菜などを作る代わりに、台峯産のクヌギやツリガネニンジンなど野草の苗を育てています。野草が採取されて無くなったり、雑木林の木の跡継ぎが育っていないので、後釜の苗を確保する意味があります。また、畑の草取りをすることで、畑（土がむき出しになった環境）を維持し、コオロギ類を保全する目的があります。



老人の畑で草取り

#### ○畑周辺の草刈

ススキ、チガヤなどイネ科の植物が多い草原になっています。放任すればクズなどのツル草がはびこってしまうので、草原を維持するには手入れが必要です。年に数回草刈をしたり、ツルを適度に除去作業しています。こ

こは鳴く虫として名高いマツムシなど神奈川県でも希少な昆虫の宝庫ですが、保全作業をすることで年々数が増えてきました。マツムシの音を聞く会を毎年催しています。

#### ○畑跡地のササ刈りとクヌギの苗の植栽

基金の作業ではありませんが、老人の畑に隣接する畑跡地のササを刈り取り、台峯産のドングリから育てたクヌギの苗を植える作業も行われています。クヌギの苗が無事に育ちササを刈った跡には、様々な植物が生え、草むらの昆虫（コオロギなど）が増えています。

#### ●湿地の作業

昔田んぼだった跡地が、尾瀬ヶ原のような湿原になっており、初夏にはホタル、秋には一面の花畑になります。鎌倉市内では貴重な生態系が残る場所ですが、放任するとツル草やササが繁茂したり森林に変わっていくため、維持管理が必要です。生態系維持のための作業を試行錯誤しています。

#### ○アオキやフジヅルを切る作業

湿地の中で小高くなっているのが、昔、田んぼの畔があった場所です。ここにアオキやフジヅルが繁茂していると日照を妨げ、湿地から森林に移り変わってしまいます。鎌倉市の場合、森林よりも湿地の環境が重要なので、アオキやフジヅルを刈り取っています。今後は畔を補修する作業も実施する予定です。

#### ○ツル植物の除去作業

主にカナムグラというツル草を除去しています。田んぼから湿地になると乾燥化が進み、カナムグラなどのツル植物が繁茂してきます。カナムグラで湿地がおおわれてしまうと

他の植物が生えないため、除去作業をしています。最初は成果が見えにくかった作業ですが、数年継続することで、カナムグラが減り、湿地の植物（ハンゲショウ、オギ）が元気に育つようになってきました。

#### ○オギ原の維持作業

湿地が少し乾燥するとオギ原になります。オギはススキに良く似た植物ですが、荻窪（おぎくぼ）という地名があるように、窪地の湿った場所に群生します。裏表紙の写真をご覧ください、台峯の湿地の一部にオギが群生しており、秋は銀色の穂が見事です。最近、湿地の乾燥化でオギ原にササが増えてきました。放任すると数年でササ原に変わってしまうため、一昨年から冬季のオギの枯草の刈り取り、そしてカナムグラやササの除去作業を実施しています。とくにササの除去作業には独特の工夫をこらして丁寧に行いました。その結果、オギ原の勢いが復活しています。

#### ●道沿いの作業

##### ○道普請

路肩が崩壊しそうになったり、道がぬかるんで歩きにくい箇所があります。台峯の場合、緑地内にまだ私有地が混在している



為、現状では本格的な補修作業が出来ません。そこで基金のメンバーが路肩に土嚢を積んだり、ぬかるみに枝を敷いたりするなど、翌日の「山歩きの会」で歩きやすいようにしています。土嚢の運搬など体力を要する作業です。

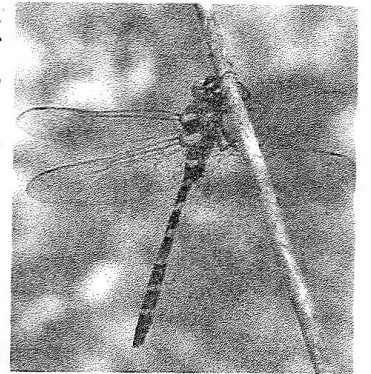
ぬかるみに枝を敷く

○湿地や道に沿って小さな水路がありますが、貴重な生物が多い大切な環境です。放任していると、ササや木の枝がおおいかぶさり、水路が見えなくなるほど繁茂するので、ササやアオキを刈り取る作業を昨年から少しずつ始めています。水路に木漏れ日が入ることでオニヤンマなどトンボが産卵しやすくなったり、貝類などの餌になる珪藻（植物プランクトン）が増えると予想されます。

##### ○道沿いの草刈

人があまり入らない台峯は、夏は草が茂って歩きにくくなります。

オニヤンマ



一般公開されていない現状では、バイクや自転車の侵入を防ぐ意味もあり、必要以上には草を刈っていません。また、道沿いには貴重な植物が多いため、ササやアオキを中心に手作業で少しずつ刈っています。シラヤマギク、タチツボスミレなどの野草が増えてきました。

#### ●台峯に現状に適した作業を模索する

台峯は都会に近い里山なので、昔と全く同じような環境を復元することは難しいのです。里山が荒廃することで新しく生まれた環境、オギ原や、湿地、ハンノキ林の保全をどうするか、従来の里山保全には無い手法を試行錯誤しながら創出しなければなりません。また、台峯の場合、田んぼや畑の復活ができない位置づけがあるので、生き物を主体に保全作業を考えていかなければなりません。人々の興味をいかに引き付けるか、自然観察と保全作業を結びつけた新しい里山の楽しみ方をいかに発信できるかが大きな課題となるでしょう。

## 台峯周辺の緑地に開発の危機

このたび台峯周辺の緑地や急傾斜地を含む約4,000㎡の土地（山ノ内891番地付近）で大半の樹木が伐採されてしまいました。台峯周辺緑地について、当基金は昨年『緑の基本計画』改訂への意見書の中で保全すべき場所として掲げましたが、市の扱いも従来の「保全配慮地区」から、9月施行の23年度『緑の基本計画』では保全順位のより高い「都市緑地」候補に格上げされています。

台峯の尾根筋にある「老人の畑」（北鎌倉、六国見山を望む畑跡地。「歩く会」でも景色を楽しみ、育苗、除草等手入れをしてきた）からの景観は急変し、逆に北鎌倉や六国見山からも緑の欠損が明らかです。残念ながら伐採はされたものの、宅地にさえならなければ「都市緑地」の候補地として依然有効です。

## 総 会 報 告

第10期事業年度に係る通常総会が2011年6月5日に山ノ内公会堂で開催された。

初めに、理事長の交代について石黒理事長から、鎌倉からの転籍等諸般の事情から理事長の責務を十分に果たせる条件がなくなったので今年度をもって職を辞したいとの要望が提起された。これに対して議長から就任中の平成21年に台峯と源氏山を繋ぐ西瓜ヶ谷の開発阻止のため、鎌倉市に1,354万円余の寄付を実現するなど、そのご活躍に感謝の言葉があり、参加者からも拍手がわきあがった。

第1号議案：第10期事業年度（2010年4月1日～2011年3月31日）の活動報告と収支計算書並びに貸借対照表、財産目録について報告。正会員から、予算書の中に予備費を計

当基金はこの緑地に含まれる青地（国有地）が開発業者に払い下げられることのないよう、8月23日管理する関東財務局と市長宛に、9月13日には市議会議長宛にも要望書を提出しました。有志による「籐源治の緑を守る会」も周辺2町内会の賛同を得、9月1日付の議長宛陳情書を3,000余の署名を付して提出しています。

これを受けて9月15日の市建設常任委員会では本議会で討議すべきか否かが検討された結果、「基本計画で保全に向け都市緑地候補地としたのだから、市の各課は協力して当たるように」との見解により今後の推移を見守ることとし、すぐに本会議ではないものの継続審議にはなりました。引き続き委員会等の動きを追っていく必要があります。議会開催まで時間のない中、署名に御協力頂きました皆様にお礼申し上げます。（関連情報同封）

小田原茂夫

上する必要があるのではないかと指摘に基づき次年度から計上することとなった。また、池周辺の保全について、もっと積極的な取り組みが必要ではないかの質問については、久保理事より、水質の悪化による酸欠状態、水門の補強等緊急に取り組まねばならない問題が山積している、池の藻についても取り除きたいが、ボート使用を鎌倉市が認めていない現状では限界があるとの答弁がなされ第1号議案は承認された。

第2号議案：事業計画、収支予算書（2010年4月1日～2011年3月31日）は承認された。

第3号議案：「正会員における入会金および年会費規定」（個人3,000円、法人5,000円）の明文化、についても承認され閉会した。

# 会 計 報 告

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

特定非営利活動法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

	科目	金額	摘要
収 入	正会員	75,000	@3,000円
	個人会費	310,500	本人@2,000円 家族@500円
	団体会費	9,000	@3,000円
	民間助成金	231,000	みどりショップ他9件
	寄付金	176,866	今年度入金 30件
	機関誌収入	500	機関誌「北鎌倉の風」
	カレンダー収入	344,800	400冊発行
	受取利息	571	定期預金他
	雑収入	2,256	保険料戻し他
		収入合計	1,150,493
支 出	(緑地の保全・管理事業)		
	整備作業費	88,858	道具研磨代
	賃借料	12,000	道具小屋借地料
	雑費	8,980	保全連絡会打ち合わせ
	小計	109,838	
	(普及・研修・事業費)		
	通信費	70,105	会員宛会報、集い発送料
	印刷製本費	281,787	カレンダー製作費、会報2回その他
	編集費	70,000	カレンダーデザイン
	事務消耗品費	39,509	山歩きチラシ、会報用紙、インク代
	賃借料	50,000	山ノ内公会堂使用料他
	雑費	15,120	集い関係費用
	小計	526,521	
	(広報・出版事業費)		
	通信費	43,848	ホームページ回線使用料
	諸謝金	30,000	葉作成謝礼
	広告宣伝費	30,000	鎌倉朝日広告掲載料
小計	103,848		
(交流・協力事業費)			
負担金	3,000	鎌倉NPOセンター年会費	
事務消耗品費	4,306	NPOセンター会報への広告料	
雑費	1,700	搬出代	
小計	9,006		
(管理費)			
会議費	14,490	定例総会	
通信費	32,900	会員証送付、振込料	
事務消耗品費	34,500	コピー代、用紙代、封筒他	
賃借料	33,000	山ノ内公会堂10月迄	
渉外費	50,000	お見舞及びお花代	
雑費	11,788	定期預金他利息	
小計	176,678		
	支出合計	925,891	
保 有 資 産	現金	0	
	当座預金	787,296	郵貯
	普通預金	1,432,400	三東U ¥1,414,637/郵貯 ¥17,763
	定期預金	288,000	三東U ¥49,000/郵貯 ¥239,000
	合計	2,507,696	
	正味財産	2,507,696	内 緑地保全積立金288,000円 ホームページ更新積立金120,000を円含む

## 会員の声

2011年7月「オギ原の笹刈り」に参加して

児玉繁美

去年の11月から「山の手入れ・山歩き」に参加させて頂いている中に、「オギ原」の笹刈りに誘われ、1月頃より参加しました。今は、自然の楽しさにとりつかれ毎回参加している次第です。

作業は、枯れた背丈以上の細骨の様に林立するオギ原で笹の刈り取りです。笹を根元より根切りし、表面の枯れ草を取り除く仕事です。人手で刈り取る一回の面積は僅かなものです。でも根気よく、少しずつ作業面積が広がっていくと達成感とスカッとした爽快感を味わうことが出来ました。



また、4月になると、草が芽吹き、山桜、大島桜が咲き、谷戸は春の盛りへと大変美しくなって来ます。更に、若葉の清々しさも日を追って緑を濃くして行く様は何とも言えません。この頃になると、オギの芽が出始めるので、残りの「オギ原」は皆さんと協力して、30cm程の高さに切って行きました。6月のオギは成長も早く、あっという間に人の入れない姿になっていました。

7月のこの暑さの中でも、作業で汗を流した後、休憩時に谷戸に吹く涼しい風を感じながら濃緑と空を眺めるこの清々しさは何物にも代えられない至福の時間であります。

## 台峯のこれからを思いながら

島田哲夫

私は昭和53年に鎌倉市に移り住み33年経過しました。1990年頃より大船の自宅より徒歩で台峯を通過して、鎌倉への初詣を続けています。不動産会社が所有している旨の看板を見るにつけ、いずれここも宅地開発されるのかと暗澹たる気持ちでした。

しかし、2004年冬の新聞報道で台峯が保全されることになったその記事のことは今でも鮮明に覚えています。台峯保全の運動に初期から関わって下さった方々に心から感謝しております。

傍観者だった私も、2009年12月から会員となり、月一度の手入れに汗を流しています。自宅から至近のところにこんなにも緑豊かな場所があるというのは、何物にも替えがたい宝物だとつくづく思います。

日本の自然保護の原点は尾瀬でしょう。尾瀬の大清水から尾瀬沼に至る道路が三平峠の直前に迫っていたときに中止決定がなされ、この時は本当に感慨深かったです。長蔵小屋の平野長靖さんが当時の大石環境庁長官へ直訴してそれが実りました。

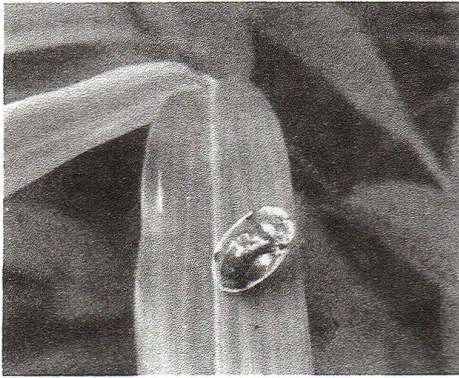
台峯も保全が決まったとはいえ、6年後の開園に向けて、管理主体はだれになるのか、公園の形態はどうなるか、課題は山積しています。これから行政側と協議していく過程ではいろいろな困難が待ち受けていると思いますが、粘り強く、着実に解決していきたいものです。

.....

## 「中高年の新人類」

河合香子

ある作業日、草の上に金色の小さな物体を発見した。透明の厚手シールの真ん中がピカピカ光っ



ている。そっ  
とはがそうと  
したら動いて  
飛んで行って  
しまった。後  
で、この虫は

「ジンガサハムシ」という名で、「ヒルガオ」の葉を食べるとい  
うことが分かった。「本当に金ぴかだね。」「羽  
が透明なんだ!」「そういえばヒルガオがたくさ  
ん咲いている…」と、ひとしきり話題になった。  
こんなことで一喜一憂しているのですという話を  
会の代表の久保さんにしたら、「正に新人類です。」  
と一言。台峯では、月に一度のわずかな作業しか  
ないのが残念だったが、今年になってから毎週火  
曜日の根気の要る作業にも誘っていただしてい  
る。小さな生き物との出会いと新人類と呼ばれる  
仲間との出会いが何よりも貴重になった。

.....

### 作業日誌「土嚢運び」

齊藤英夫

6月18日、初夏、作業環境としては、どうかな？  
と思うくらいに蒸し暑い日。ため池の辺りには、  
作業用の用具が置いてあり、その片隅に山と積  
まれた土嚢100袋くらいあったか？この土嚢を  
一輪の荷車で路肩の崩れた所まで、運ぶ単純な  
作業。谷戸の細く曲りくねった坂道に、湧水で  
1年中乾くことのないぬかるみがあったりして、  
荷車は平坦な所から目的地までとした。平坦  
な所までは人数を増して人海戦術をとったもの  
の、思いの外辛い作業となった。野晒しで積ん  
であった土嚢、只でさえ重いのに雨水を含んで  
いて重くなっていたのだ。なるだけ労力をかけ  
ないようにと、短かい距離での手渡しにした。

最初の内は冗談を交わしていたものの、次第に  
寡黙になっていった。

どうにかこうにか時間内に目的地まで運び終  
えたものの、もうそこには達成感はなかった。

.....

### 山の手入れに参加して

小幡正弘

今年の4月から参加しています新人です。

参加のきっかけは66歳で離職して私的な催事等  
で2年が過ぎようとしている頃に、妻が「台峯  
を歩く山歩き」があることを教えてくれたこと  
です。

その後愛犬ミモと散歩でたまに通る山の手入  
れの道具入れの前を通った時に、パンフレット  
を見て「山の手入れ」を知り庭の手入れの延長  
線で参加してみようと思ったことが動機です。

参加してみると大半が高齢者でしたが、皆さ  
んそれぞれ熱心に意欲的なものには感銘しました。

4月第1回目は老人の畑の土おこしでした。ま  
さに庭の手入れの延長線でした。5月はオギハラ  
の手入れでした。これも庭の手入れと同じでした。  
6月が土嚢運びでしたが、68歳を過ぎた体には  
かなり堪えました。また水をかなり含んでいるよ  
うで通常より重量があったのでは。これは庭の手  
入れ延長線ではありませんでした。7月は山道  
の整備でした。これは楽勝でしたが自宅から山の  
手入れの場所までの往復が辛かった!汗だくにな  
ってしまい、帰宅後すぐにシャワー!

山の手入れの後でのお菓子とお茶には感動し  
ました。自主的にされている様で私はお相伴に  
あずかるばかりです。なかなかできることでは  
ありません。又さりげなくされているのも素敵  
です。

私も体が動く限り参加させていただきます。

## 川上さんのちょっと昔の物語

なでしこ

台峯の遠い昔、澄み切った蒼空、向いの六国見山に真っ白な入道雲が湧き立つ。段々畑の土手や小道（径）の脇には茅がや（チガヤ）が繁る。

その中に点在して撫子の花がぼつりぼつりと可憐な花を咲かせていた。真夏の日差しの中、草むらのあちこちでキリギリスが鳴き交わっていた。山畑の周りを暑さもいとわず、子どもたちが散らばって虫取りに興じていた。野山を駆け巡る男の子だ、傍らに咲く撫子の花には興味も示さずにキリギリスの鳴き声を目指して一步一步忍び寄り、キリギリスの捕獲に神経を集中する。撫子の花が美しいとか、綺麗だとかは意識の外だ。花を愛でるよりもキリギリス捕りの遊びに夢中になっていた。

思えば撫子はきれいな花だった。撫子の花は秘かに、茅がやの中で儂げな花びらをそっと覗かせて咲いていた。つつましくて、淑やかで、優しい大和撫子、日本女性の心根を例えるには、もっともふさわしい花だった。今、台峯の段々畑も土手も笹が生い茂り、暗い藪になり荒れるに任せている。手入れもされず放置されて、すでに半世紀も過ぎてしまった。かつて、そこに存在した草花は絶え生き物は駆逐されてキリギリスの鳴き声を聴くことも、撫子の花もみることはできない。今は子どもの頃の儂い夢の情景として甦るだけだ。老いて今、台峯から姿を消した撫子に、懐かしさと愛惜の情がわいてくる。

時を経て強くたくましく変貌して、この夏大和撫子は復活、…なでしこジャパン…万歳

川上克己

【注】 カワラナデシコ（ナデシコまたは中国原産のカラナデシコと区別するために大和撫子とも呼ばれる）は草原など開けた環境を好む種であるが、日当たりの悪い環境に変化すると生育に適さなくなる。昔は、草原や山地、河原等の環境は人の手により草刈や枝打ち等され、里山的な利用が行われてきた。これで、日当たりの良い開けた環境が継続してきたが、近年このような手入れが行われなくなると、カワラナデシコに代表される人間と密接な関係のある普通種が、その自生地や個体数を減少させてしまうことになる。



「撫し子」

子どもの頭を撫でていつくしむ心持ちを誘うと言われ、万葉の時代から親しまれ、歌に詠まれた。秋の七草のひとつ。



## かっちゃんの昔がたり

北イタリアの古都、ボローニアで毎年世界の絵本原画展が開催されるのは知っていました。児童書専門のブックフェアに伴うイベントとして、子どもの本のために描かがれた作品を、五枚一組にすれば誰でも応募できます。国籍の異なる五人の審査団が厳正に審査して入選作を決めるということでした。今年は当「基金」の会員であり、代々、台にお住まいで、数十年前まで畑や田圃を作っていた川上克己氏の昔がたりを、鎌倉中央公園の活動にも参加しておられる絵本作家、とみたしょうこさんが画かれた原画が入選ということで、板橋区立美術館での「国際絵本原画展」を見に行ってきました。何しろ、鎌倉から出かけてお江戸を西から東へ、中山道の板橋宿まで行かなければなりません。入口に「不便なところでごめんなさい」と貼紙があり、笑ってしまいましたが、もう少し近ければ沢山の「基金」の会員の方たちにも見ていただけたのにと少し残念でした。

原画展は油彩、水彩、アクリル、リトグラフ、版画と多彩ですが、とみたさんのは不透明水彩としてありました。展示されたのは規定に従った五点「きちょうな紙」「竹馬」「ひごのかみ」「おとむらい」「山のめぐみ」、入り口のロビーで十二枚全部を見ることが出来ました。「木のぼり（台峯の松）」「どじょうぶち（打ち）」「谷戸の池」「虫取り」「ながいも掘り」「山歩き」「どろぼう」

敗戦直後、お弁当を包む紙にさえ不自由していた時代、でも松の木に登り、谷戸の池で泳ぐ、小さい子は藤づるで腰を結び、それを



年長の子がつかむ。山の芋を掘り、ドジョウを捕り、部落総出のおとむらいの行列に悪さをして叱られたり、子ども達が台峯の恵みを存分に受けて精いっぱい遊びまわっていた様子が生き生きと語られ、画かれていました。台峯がボローニア経由で世界に発信されたと考えると、こちらも何だか楽しくなります。

ここで文明論を語る気はありませんが、少なくとも夏なのに長袖を着、マスクをつけ、外で遊ぶこともできない福島の子も達にくらべれば、かつての台峯の子も達も幸せで合ったには違いありません。そんなことを考えながら鎌倉に戻ったのでした。

和泉あき

「ボローニャ国際絵本原画展」は、1967年に始まりました。2011年は世界58ヶ国2836人ものイラストレーターから応募があり、その中から日本人19人（組）を含む20ヶ国76作家が入選となりました。原画を画かれたのは、とみたしょうこさん。鎌倉中央公園で活躍している若いお母さんでもあります。川上さんが育ったころの暮らしは、今と違っていることも多く、食卓に並んだ食べ物、服装、履物、家の周りの様子など“時代考証”は川上さんが担当しました。

### 台峯の周辺—歴史つれづれ— ③

台峯に携わる私たちにとって女学校といえ  
ば勿論北鎌倉女子学園である。台峯に上る時  
も一番簡単なのは校舎と運動場の脇を通過して  
いくコースだし、また年1回当基金は生徒さん  
を案内もする。

先般知人を連れ半日台峯で遊んだあとは、  
逆に「老人の畑」から運動場へ下りた。と、  
一人が急に「ここ、ひょっとして、母校の？」  
と興奮し始める。同時に私も思い出したが、  
彼女はこの学校の卒業生だった。その日歩き  
始めて数時間して、というか、この学校に入  
学後数十年して、初めて運動場の裏にかくも  
豊かな自然が広がっていることに気付いたと  
いう訳なのだ。現役の生徒さんを案内する理  
由もここにある。

ところで北鎌倉女子学園がここに建つ前、  
昭和8年から3年間だけ別の女学校があった  
ことは、例えば鎌倉市の「かまくらの女性史」  
でも紹介されている。潤光女学校である。

生徒より先生の数が多い、少人数で自由な  
学校だったと卒業生も教師も一様に懐古す  
る。生徒の個性を尊重したが、まず教師自身  
が個性的である。例えば音楽は後に武蔵野音  
大学長となった福井直弘、美術は和田三造で  
当時既に著名な洋画家だったが、戦後に映画  
「地獄門」でアカデミー衣裳賞を受ける。歴  
史の北山茂夫もあとから加わった。

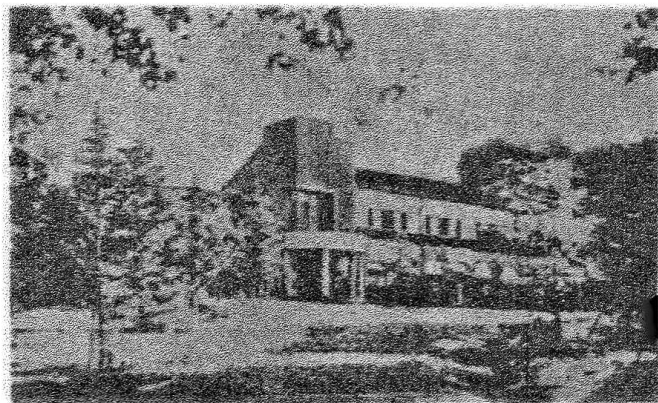
更に体操は七里ヶ浜在住の亡命ロシア人パ  
ヴロバ姉妹がダンスを教えた。そもそも本校  
の創設者が彼女らのスタジオ建築を支援した  
縁があった。おそらく一般の学校でバレエを  
取り入れた我が国最初の例であろう。台峯を  
背に校庭でポーズを決めている先生と生徒の

写真が残っていて微笑ましい。

また、弓、薙刀は流鏑馬武田流の金子有鄰  
だった。長らく扇ガ谷に居と厩を構えてお  
り、昭和40年代も馬で化粧坂を上り源氏山  
で訓練する古式ゆかしい姿を見かけたもので  
ある。

生徒たちは優雅にバレエを舞ったその手  
で、続く授業では薙刀を握ったことだろう。

なお、昭和11年同校は鎌倉を離れ、横浜  
生麦に移転した。幸い戦火には遭わなかった  
ものの、諸般の事情で昭和25年に法政大学  
の傘下に入った。現在の法政女子高である。  
「潤光」の名は消えてしまったし、創設者の  
久野調夫、タマ夫妻も今や忘れられた存在で  
はあるが、建学の精神は現在に引き継がれて  
いる。



遅ればせながらも知人には学校裏の自然を  
気に入ってもらえて良かったと思う。また昭  
和も初めに台峯の山腹を舞台にロシアの宮廷  
文化と日本の古武道とが少女たちを通して交  
錯していたことも、何とも楽しいではないか。  
山ノ内字藤源治とかつて呼ばれた地は、こう  
いうところなのだ。その自然と文化とを守っ  
ていきたいものである。

本田隆史

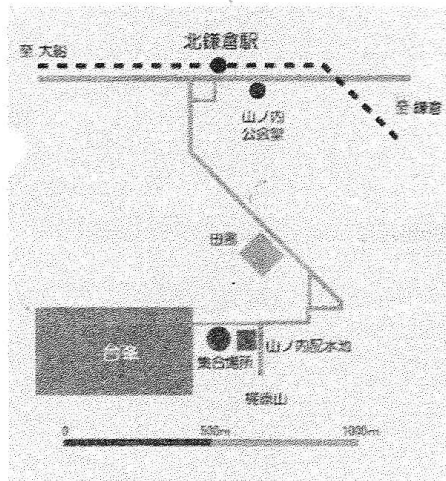
## 活動報告

(2011年3月～2011年9月)

- 1 定例理事会 3/6・4/3・5/1・6/5・7/3  
8/7・9/4
- 2 通常総会 6/5
- 3 台峯を歩く 3/20・4/17・5/15・6/19  
7/17・8/21・9/18
- 4 山の手入れ 4/16・5/14・6/18・7/16・  
8/20・9/17
- 5 モニタリング 3/6・4/3,16・5/1・6/18・  
7/3,16・8/7・9/4,17
- 6 台峯保全連絡会 3/29・4/28・5/26・6/30・  
7/28・8/23・9/29
- 7 公園海浜課との現地視察および作業  
3/29・4/4・5/23・6/20・  
7/25・8/18・9/27
- 8 ホタル観察会 6/19,21,28
- 9 マツムシを聞く会 9/18,27

### 手入れに参加しませんか？

毎月第3日曜日の前の土曜日、10時～12時  
服装は長袖、長ズボン、歩きやすい靴（湿地の  
作業は長靴）軍手と帽子、飲み物は必携。



作業に必要な  
道具は用意し  
ます。  
参加ご希望の場  
合は事務局に  
ご一報下さい  
集合場所は左  
図、山ノ内配  
水池付近です。

新規会員募集中

年会費 2,000円

会費及び寄付金の振込み先

郵便口座番号 00250-2-20454

口座名 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

## 伝言板

### ●カレンダー「台峯の四季」2012年版

ご好評に应运えて今回も池英夫さんの小鳥シ  
リーズです。ご存知の方もいるかと思いますが  
が、池さんは昨年日本初の記録となるアメリ  
カキズタムシクイを発見、すばらしい写真と  
ともに報告しました。その後キツタアメリカ  
ムシクイは日本初記録の野鳥として日本鳥学  
会に正式に受理され、日本鳥学会誌（第59  
巻第2号）に掲載されました。池さんの写  
真では小鳥たちの姿だけでなく表情もお楽し  
みいただけます。

### 編集後記

会報24号（3月15日発行）では震災直後で、な  
んとか被災地の力になりたいと申しましたが、5月  
7日に鎌倉市、市福祉協議会、鎌倉ユネスコ、NPO  
市民活動センターの共催で、市役所駐車場で開催さ  
れた「東日本大震災救援合同バザー」に北鎌倉グル  
ープとして参加しました。当日は雨でしたが、当基  
金の久保さんの育てたバラはじめ多くの野草の鉢が  
並び、食器、衣類、など数多くの献品が寄せられグ  
ループ全体で24万円余り寄付が集まりました。参  
加された方々にお礼申し上げます。

台峯周辺緑地（山ノ内891番地先）の開発計画  
についてのご報告のためなどで、会報の発行が遅れ  
ましたことをお詫び致します。

### 会報25号

発行日 2012年9月30日

発行者 NPO法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金  
事務局 〒247-0062 鎌倉市山ノ内704-9

（和泉方）TEL 0467-47-9892

Email aramaki@gw3.u-netsurf.ne.jp

HP <http://www.kamakura-daimine-trust.org/>

写真提供：池英夫・石原瑞穂・市川和夫

イラスト提供：市川和夫

## オギ原の四季



3月



6月



9月



12月



オギ原は台峯の特徴的な景観の一つです。秋になると、昔たんぼだった場所にオギなど湿地の花が満開になりますが、放任するとササやツル植物に覆われていく場合があります。

近年、台峯のオギ原もササやツル植物の繁茂が目立ってきました。このような環境は神奈川県内でも貴重な自然環境になっていますので、保全の為に様々な手入れ作業を試みています。枯れたオギの刈り取り、ツル植物（主にカナムグラ）やササの除去に励んだ結果、オギ原の勢いが復活してきました。